

朝倉とともに 2018.7.16

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第23号

チェーンソーの音響く

大まかに土砂を撤去した後、コンクリート基礎と砂利を敷いていた境目部分の土砂の清掃や家屋の壁に付着した泥を取り除く作業を行いながら二次災害防止のための土嚢作りを行った。また、敷地内を囲んでいた土砂に埋もれた木の柵を搬出するため、チェーンソーである程度の長さ揃えて切断していった。再利用も考慮したが、新たに柵は作り変えられていく。



九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。

7月16日(月)被災者の方と3名で引き続き土砂清掃と木柵の切断整理作業を行った。連休の最終日でもあったため、午前中で終えたが、30度を超える真夏日の中、てきぱきと作業は進められた。



笑顔の裏 疲労の色濃く

被災されてから10日、復旧作業に入ってから4日目を迎え、被災者の方は土砂を目の前に初めはどうなることかと思われていたが、想定よりも早く作業が進んだため笑顔が戻った。しかし、ずっと緊張されていたのだろう、疲労の色が見えた。



より強固に美しく生まれ変わる

合わせて重機がこの数日間フル回転で稼働し、ほぼ被災前の状況に戻り、法面や平地の形となってきた。土砂に埋もれていた裏庭が整えられていく様を見ていると、この先どのような庭に生まれ変わるの

か労苦はあるけれども楽しみが先立っている自分に気づき、今後も被災者の方を支援し続けたいと心から思った。道路上の土砂崩れの場所も重機によって整理され、応急処置ではあるが固められていった。

